

FAXの積極的な活用でデータ登録を集約 審査業務効率化を支援するITソリューション

企業向け融資が縮小傾向にある中、個人向け融資を拡充する金融機関が増えてきた。しかし個人向け融資は小口のもの多数扱うため、審査業務の負担が増大する傾向にある。この課題をITで解決するのがアイティフォーの「個人融資審査支援システム」である。京都銀行では2000年4月からこのシステムを活用し、審査回答までの時間を大幅に短縮。FAXを積極的に活用することでデータ登録の集約も実現した。センタ側のFAX送受信メカニズムには「MultiPort FAX 3 Pro」を採用。業務システムを効率的に実現できるFAXサーバとして高く評価されている。



株式会社アイティフォー
ソリューションシステム事業部
営業企画部 部長
太田 哲司 氏



株式会社アイティフォー
ソリューションシステム事業部
営業企画部
藤川 信吾 氏

個人向けローンの成長を支える 審査業務におけるIT活用

「地域社会の繁栄に奉仕する」を経営理念に掲げ、京都における最大のリテールバンクとして活躍している京都銀行。自己資本率は連結・単体ともに10%を超えており(2002年9月30日現在)、極めて健全な財務内容を持つ銀行のひとつである。その一方で店舗ネットワークや営業体制の拡充、専門分野の能力向上など「攻め」の取り組みにも積極的。顧客や市場から認められるために、真の変革と新たな価値創造を目指した活動を進めている。

同行の実績で特に注目したいのが、住宅ローンなどの個人向けローン残高の推移である。1999年3月に5343億円だった住宅ローン残高は、2002年9月には7128億円にまで上昇。収益の大きな柱に育ちつつある。

この個人向けローンの拡充を支えているのが、個人融資審査におけるIT活用である。京都銀行では1999年4月にシステム化計画に着手。アイティフォーが提供する「個人融資審査支援システム」を利用したシステム構築を10月からスタートし、2000年3月に無担保ローン審査支援システムを本番稼働させている。また2003年5月には住宅ローンの業務を追加し、これによって住宅ローンだけで月間1000件を超える審査業務を飛躍的に効率化しようとしている。以前は書類のやり取りを含めて2日以上かかっていた審査結果の回答を、1日以内に短縮することに成功しているのである。

センタと本支店間はFAXでやり取り 窓口の負担を増やさずに迅速化

システムの構成は図1に示す通り。ダイレクトバンキングセンタに審査用のサーバを設置し、専用線によって信用保証サービスや個人信用センタなどと接続している。ここで注目したいのが、ローン申し込みの窓口となる本支店との情報のやり取りを、FAXで行っている点である。まず本支店からFAXで送られてきた審査書類をセンタ側のFAXサーバで受信。FAXのイメージデータを審査サーバに蓄積し、このイメージを

図1 京都銀行が導入した個人融資審査支援システムの構成図

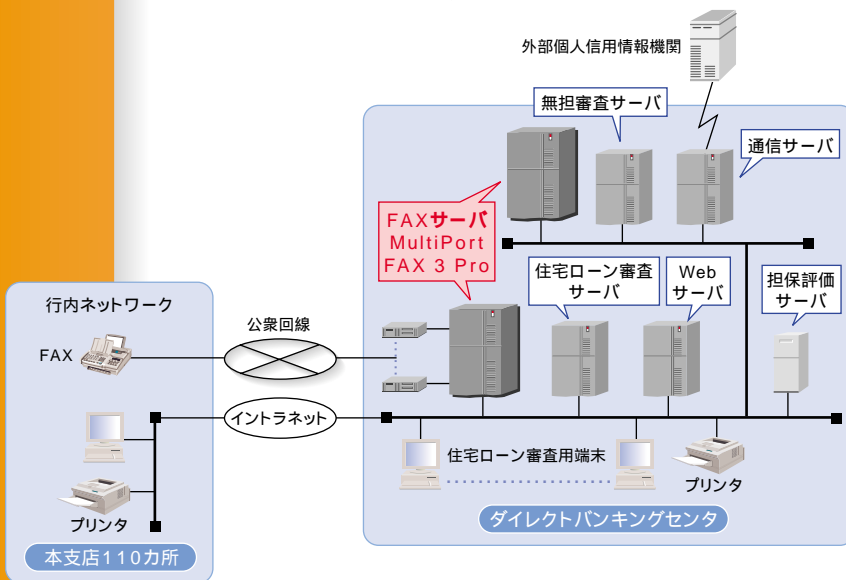
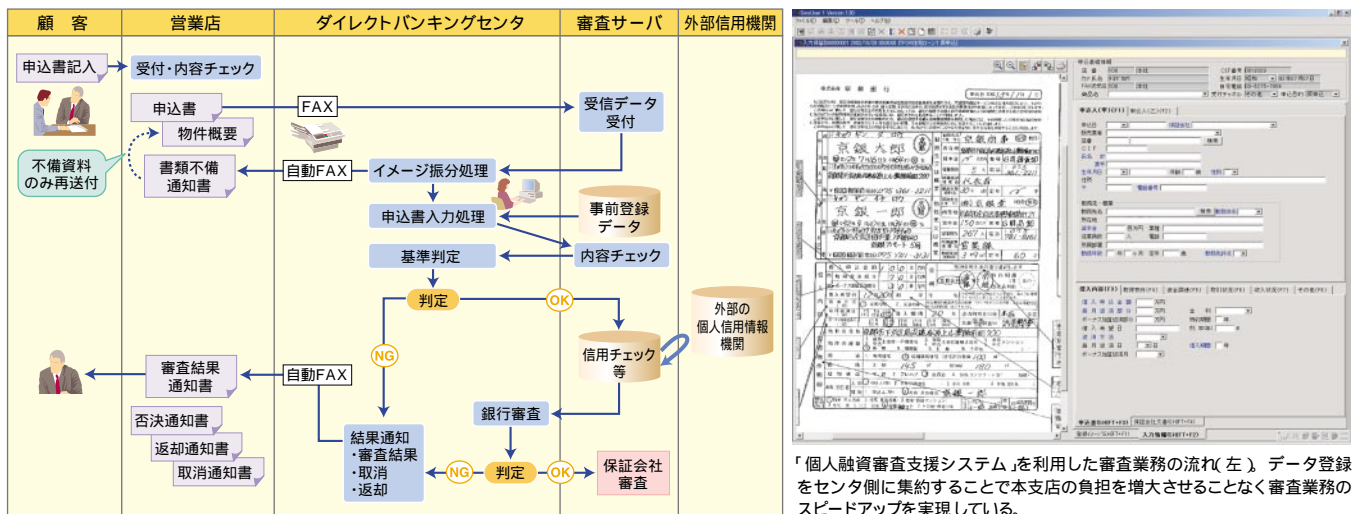


図2 個人融資審査のワークフローとFAX受付画面



元にセンタ側で集中的にデータ登録を行う。さらに審査サーバはこの登録データや個人信用センタなどから受け取った情報を元に、スコアリングを行うことで銀行審査作業を支援。審査結果は再びFAXサーバによって、本支店へと送付されるようになっている(図2)。

それではなぜ本支店とセンタの間をFAXで接続しているのか。その理由を「本支店の負担を増大させることなく審査スピードを高めるため」と、このシステムの設計・構築を行ったアイティフォーの太田部長は説明する。京都銀行ではすでにイントラネットが構築されているため本支店で直接データ登録を行うことも可能。しかしこの方法では本支店の負担が増大するというのである。

これに対してFAXなら、本支店は顧客が記入した書類などをそのままFAX機にかけただけでいい。またデータ登録をセンタに集約することで、業務コストの大幅削減という効果も期待できる。「多数の支店で受付を行いながらデータ登録を集中化したいのであれば、FAXの活用が最適な解決策なのです」。

**FAXサーバにはMultiPort FAXを採用
業務ニーズに対応できる唯一の製品**

このシステムのFAXサーバとして利用されているのが「MultiPort FAX 3 Pro」であ

る。アイティフォーではこのソリューションの開発を開始した1994年からFAXサーバとしてMultiPort FAXを採用。その後バージョンアップを繰り返しながらこの製品を使い続けている。

「MultiPort FAXを採用した理由は大きくふたつあります」というのは、アイティフォーソリューションシステム事業部の藤川氏。ひとつは複数回線を利用できること。もうひとつはイメージファイルのデータを外部システムとやり取りできることだ。京都銀行のシステムでは5回線を持つFAXサーバを2台設置。イメージデータは審査サーバに取り込まれ、データ登録画面に表示されるようになっている。このふたつのニーズに対応できるFAXサーバは、開発当初の時点ではMultiPort FAXしか存在しなかったという。

その一方でFAXサーバとしての充実した機能や、アプリケーション開発用のAPIが豊富に揃っている点も重要な特長だという。「FAX再送や割り込みなどの処理も、MultiPort FAXなら簡単に実現可能。柔軟性と信頼性が極めて高いので、業務システムを構築しやすいのです。このような特長はMultiPort FAX 3 Proにバージョンアップされたことでさらに強化されています」。

実はアイティフォーの「個人融資審査支援システム」を導入しているのは京都銀行だけだ

USER PROFILE



株式会社アイティフォー

1972年創業。2000年に千代田情報機器株式会社から社名変更。最新の通信システムや情報システムを活用したITソリューションの提供やインテグレーション、カスタマサービスなどの事業を展開している。特に金融系ソリューションで強みを発揮しており、同社の債権管理システムは地方銀行の70%が採用しているという。資本金9億5500万円、従業員数339名(2003年1月現在)、売上高99億9100万円(2001年度実績)。

はない。地方銀行や信託銀行、都市銀行、ノンバンクなどで、これまでに21のシステムが動いているという。MultiPort FAXを活用したアイティフォーのソリューションはすでに数多くの金融機関で効果を発揮しており、その実力が高く評価されているのだ。

* エスシー・コムテクス株式会社は2003年2月1日をもって、住商エレクトロニクス株式会社と合併いたしました。

お問い合わせ先



エスシー・コムテクス・カンパニー

〒101-8453

東京都千代田区神田錦町3-11 住友商事錦町ビル

TEL : 03-5217-5834 FAX : 03-5217-5843

E-mail : mpf@info.sse.co.jp

住商エレクトロニクス株式会社